

YAMAGUCHIfarm 株式会社



儲かる農業をリードする大規模稲作農家

山口貴広さんは、県内屈指の米どころの稲敷市で1839年に創業した稲作農家の9代目です。2012年に本格的に家業を継ぎ、自然豊かな茨城で安全で美味しい米づくりを目指しています。元々、経営の大規模化を目標にしていたことや、稲作農家の高齢化が進む地域の受け皿となるため、「茨城モデル水稲メガファーム育成事業」に応募しました。事業がスタートした2018年は33haだった農地が3年後には107haと3倍になり、売上は倍増しました。2019年にはスマート農業加速化実証プロジェクトにも参画し、最新鋭のロボットトラクターやGPS田植え機、携帯端末とリンクした乾燥機などを導入して、スマート農業を実践しています。大規模稲作経営を志向する地域の若手農業者と連携を図りながら、生産性の向上を実現し、儲かる農業をリードする存在として注目を集めています。

専門家が法人化のメリットを明確化。納得感を得ながら会社設立へ

農機具は年々大型化の一途を辿り、乾燥機や保管庫の整備等も必要不可欠な上に高額。しかも食の多様化によって米価は下がる一方で、「米農家は辞めるか、大規模化するしかない」と法人化への決意を固めていきました。

そして県主催の「法人化促進講座」では、法人と個人の経営を比較し、農業経営における金銭の流れや人材確保・雇用といった具体的な基礎知識などを学んだほか、民間で開催されている農家向けのセミナーも積極的に受講して、経営者としてのマインドを醸成しながら、法人化への準備を進めていきました。法人化に向けては、茨城県農業参入等支援センターから3名の専門家が支援チーム員として派遣されました。今後の業績を伸ばすため事業方針の相談を中小企業診断士に、社会保険や労災等の相談を社会保険労務士に、農地に関連する事項を農地中間管理機構から説明を受けました。「農業改良普及センターの方々の力もお借りして進めていったので、頭をひねったのは定款ぐらい。元々、税理士さんには書類や確定申告等はお願していたこともあり、法人化の手続き自体は、それ程難しくなかったですね」と円滑な法人化を実現しました。

専門家の強力な援護射撃で規模拡大に安心感

YAMAGUCHIfarm株式会社は茨城モデル水稲メガファーム育成事業を活用して、目標だった100ha規模を達成しましたが、急速に拡大する経営の変化に対応するため、2021年に再び専門家の派遣を活用し経営改善を実施しました。サクセスストーリーを叶えた中小企業診断士と共に、段階を踏まえて農地や売上を更に倍増させる方針を定めました。社会保険労務士には従業員の労働基準法に基づいた1年単位の変形労働時間制の作成や雇用契約書の詳細なチェックなどの支援を受け、今後の雇用や働き方改革につなげました。

専門家の支援が大きな原動力となった山口さんは、「お金の流れも常に変化し、人材確保などこの先も課題が尽きませんが、農家の悩みや想いに寄り添って貰える恵まれた環境を作っていただいているので、安心感があります。今後も支援センターの専門家派遣制度を積極的に活用していきたいと考えています」と引き続き専門家を活用しながら課題解決を図ろうとしています。規模に応じて経営を最適化しながら、茨城の稲作の未来を切り拓くトップランナーとしての役割が期待されています。

2022/1/18 掲載

YAMAGUCHIfarm株式会社

地域: 稲敷市

支援内容: 法人化、
経営改善(2019年～)

主品目: 米

経営面積: 107ha



YAMAGUCHIfarm株式会社代表山口貴広さん



乾燥機には携帯端末から状況をチェックできるICTを取り入れる



大型農機も活用しながら、農地拡大と共に生産効率化を図る



デザインにこだわったオリジナルの米袋